知事選の結果及び、水道料金値上げ問題についての見解

憲法がいきる明るい千葉県をつくる会

今回の知事選挙は、自民党丸抱えの現職知事と「明るい会」から立候補した小倉候補との事実上の一騎打ちとなりました。県議会の自民党を含む５与野党が支持する中、１６日投開票の千葉県知事選挙で、「憲法がいきる明るい千葉県をつくる会」（明るい会）の小倉候補は、１４万４３５票（前回１２２，９３２票）、得票率８・５８％（前回６・１５％）を獲得し、得票数・率ともに前回を上回り健闘しましたが、残念ながら当選に及びませんでした。

小倉候補は県知事選を通じて、「水道料金２０％値上げ中止」を訴え続けました。この水道料金２０％値上げ中止」は、日に日に有権者の共感を広げ、オンライン署名も短期間に１万筆を超え、最大の争点となりました。ＮＨＫの番組「首都圏ネットワーク」をはじめ、メディアも水道料金問題を報じて、ＮＨＫの出口調査では、「物価高などの影響で水道料金を２割程度値上げする千葉県の方針について」の問いに、「賛成２６％」、「反対４６％」、「どちらともいえない２８％」となっており、「水道料金値上げ反対」が多くの県民の声だということが示されています。また、「反対」の人も約８０％が現職に投票したと回答しており、熊谷知事がコメントしている「当選をもって水道料金値上げが信任された」とは言えないことが明らかになっています。

　物価高騰、社会福祉切り下げのもとで、県民のくらし、経営を守る政治が本当に大事になっています。「明るい会」は引き続き水道料金値上げ中止を求めていきます。同時に、大型開発優先、県民の福祉・医療・教育後回しの政治にストップをかけ、県民本位の県政の実現に、県民のみなさんと力を合わせてがんばります。